
札幌市学校施設維持更新基本計画(改定案)

パブリックコメント意見集

～いただいたご意見と札幌市教育委員会の考え方～

令和6年(2024年)12月

札幌市教育委員会

市政等資料番号
02-S01-24-2468

札幌市教育委員会では、「札幌市学校施設維持更新基本計画」（改定案）について、市民の皆様からのご意見を募集いたしました。この資料は、市民の皆様からいただいた意見の概要と、意見に対する教育委員会の考え方をまとめたものです。市民の皆様から寄せられた貴重なご意見を参考にしながら、教育環境の維持向上に努めてまいります。

たくさんのご意見を出していただき、誠にありがとうございました。

1 パブリックコメント実施概要

(1) 意見募集期間

令和6年10月29日（火）～令和6年11月29日（金）

(2) 意見募集方法

持参・郵送・ファックス・電子メール・札幌市公式ホームページ

(3) 資料の配布場所

- ◆ 札幌市役所本庁舎2階 市政刊行物コーナー
- ◆ 各区役所（総務企画課広聴係）
- ◆ 各まちづくりセンター
- ◆ 札幌市教育委員会（生涯学習部総務課）
- ◆ 各市立図書館（中央図書館、各地区図書館、えほん図書館、図書・情報館）
- ◆ 札幌市生涯学習センター（ちえりあ）
- ◆ 札幌市公式ホームページ

2 意見内訳

(1) 意見提出者数・意見件数

25人・47件

(2) 年代別内訳

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数(人)	0	1	6	11	4	1	2	0	25
件数(件)	0	1	7	31	5	1	2	0	47

(3) 提出方法別内訳

提出方法	持参	郵送	ファックス	電子メール	ホームページ	Web回答フォーム	合計
人数(人)	0	0	0	2	0	23	25
構成比(%)	0	0	0	8	0	92	100%

*表中の内訳数値は、小数第2位を四捨五入しています。

3 ご意見の概要及び札幌市教育委員会の考え方

第2章 当初計画における学校施設整備

ご意見の概要	札幌市教育委員会の考え方
3 当初計画策定後の学校施設整備の課題と社会的ニーズ	
当初計画はそもそも実現可能な計画だったのか。	当初計画は、築30年以上の学校施設が全体の約7割を占める、多額の事業費が必要な中、学校施設の現状と課題を整理し、将来に大きな負担を先送りすることなく、学校施設を健全に保ち、児童・生徒が安心して充実した学校生活を送ることができる環境を形成することを目的として策定したものです。改築事業量を平準化することで、財政支出を縮減しています。
学校への各種施設の複合化により、予算面でも改善が見込めるのか。	学校施設に児童会館やまちづくりセンターなどの公共施設を複合化することにより、札幌市全体として管理する施設数が減少し、それに伴い維持管理費用や建替え費用も減少するため、将来にわたって支出する費用が抑えられ予算面での改善が見込まれると考えております。
子どもの数が減少しているので、学校の統廃合が必要。	教育委員会では、未来を担う子どもたちにとつて、より良い教育環境を整えるため、学校の再編などによる学校規模の適正化を進めています。
小規模校であることが子どもの発達の課題になるとは思えない。	札幌市における適正な学校規模や、学校規模適正化の必要性については「札幌市立小中学校の学校規模の適正化に関する基本方針」に記載しており、当該方針は、教育についての有識者、保護者、小中学校の校長などからなる「札幌市立小中学校適正配置審議会」等における議論及び答申に基づいて策定しています。 議論の内容や資料については札幌市公式HPにて公開しておりますので、是非ご覧ください。 https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoukaigi.html
義務教育学校は魅力ある学校づくりを目指したものにしてほしい。	札幌市の義務教育学校においては、9年間を見通した系統的な学びや小中教員が相互に乗り入れて指導を実施すること、日常的に幅広い異学年と学び合うことなどを通して、子どもの知・徳・体の調和のとれた育ちの一層の充実を図ります。

第3章 今後の学校施設の維持更新

ご意見の概要	札幌市教育委員会の考え方
1 今後の学校施設整備の方向性	
改築校の選定に当たっては、地域的な分散も考慮すべき。	改築対象校の選定に当たっては、基本的に建築年時の古い学校から順に改築を行いますが、複合化の対象となる児童会館やまちづくりセンターなどの公共施設の老朽状況なども総合的に勘案しながら進めています。

第4章 付帯施設等の整備

ご意見の概要	札幌市教育委員会の考え方
2 武道場	
空き教室を活用して武道場を再整備することで費用を削減できないか。	児童・生徒が安全に競技を行える環境を整える必要があることから、現状では空き教室の活用による整備は困難です。
3 プール	
民間プールの使用を進めてほしい。(類似意見1件)	老朽化によって傷んでしまって修理に多額の費用が掛かる場合や更新が必要な場合は、学校の周辺にある公共プールやスイミングクラブのプールを借りて授業を行う取組みを進めています。既に移行した学校の子どもたち・保護者からは、きめ細かい授業を受けられると好評の声をいただいている。水泳授業は、子どもたちが水に慣れて、安全意識を高めるための大切な機会なので、今後も続けていきます。
4 給食室	
給食室はセンター化していくべき。(類似意見4件)	札幌市では、現在、自校調理方式および親子給食方式により給食提供を行っていますが、164校の給食室の約7割において築30年を経過しております。
給食室はセンター化せず、今のまま継続した方が良い。(類似意見8件)	また、今後は、給食提供の対象となる児童・生徒数の減少のほか、生産年齢人口の減少による給食調理の担い手不足が見込まれます。こうした情勢を踏まえながら、今後とも、衛生管理を徹底し、アレルギー対応、食育等に配慮した安全安心な学校給食の提供を継続するための手法を検討してまいります。
給食室のセンター化にあたり、アレルギー対応や学校事情にも配慮した計画にしてほしい。	

5 トイレ	
ジェンダーレストイレは設置しないでほしい。 男女の区別なく使用できるトイレを増やしてほしい。	改築時には、男女別トイレが使いづらい子どもたちのために、男女別トイレのほかに、誰でも使えるトイレを作っています。
8 バリアフリー化	
バリアフリー化に賛成。	障がいのある方が使うだけでなく、給食の運搬や学校を訪れる地域の人が使いやすいようにエレベーターを順番に整備しています。
エレベーターの設置は不要。	
9 冷房設備	
早期にエアコンをつけてほしい。	児童・生徒、教員の皆さんのが快適な学校生活を送ることができるよう、令和9年度までに全市立学校・幼稚園の普通教室や職員室などに常設エアコンを整備する予定です。 工事を行う事業者の体制確保などの課題から、一斉に整備を行うことが難しいため、段階的に取り組みを進めていきます。
10 付帯施設等を含む学校施設の維持更新に係る費用	
予算の制約でこれまでより、安全面や学習環境が悪くならないようにしてほしい。	日常点検や法定点検に基づいて、事前に対策を行うなど、安全安心な施設づくりのために教職員と連携しながら、ソフトとハード両面で事故を未然に防ぐ取組を行っております。また、限られた予算の中で慎重に検討を行い、子どもたちの学習環境を維持してまいります。

その他（計画全般に関することなど）

ご意見の概要	札幌市教育委員会の考え方
学校で過ごす人たち全員のための計画という事をアピールするべき。	社会情勢の変化などに応じて、学校で過ごす全ての人々のニーズを考え、計画を適宜見直してまいります。また、子供たち、教職員、保護者の皆様の声を大切にし、全員がより良い環境で過ごせるよう、今後も皆様のご意見を反映しながら、より良い学校づくりを目指してまいります。
各教室の天井に吊り下げるタイプのプロジェクターを設置してほしい。	1人1台端末の導入により、データの共有・閲覧が容易になっているため、メンテナンス性を考えて、固定式ではなく、持ち運びが可能なプロジェクターを利用しています。
学校に太陽光パネルはいらない。	札幌市では、2021年3月に札幌市気候変動対策行動計画を策定し、持続可能な脱炭素社会の実現を目指しています。太陽光パネルについては、2024年4月現在、学校施設 315 校のうち

	158 校に太陽光発電設備を設置しており、今後も導入拡大に向けて取り組んでいきます
カームダウン室を整備すべき。	児童・生徒の安全を見守る教員職員、校舎面積や予算が限られる中、現状では困難です。ただし、職員室に隣接させるなどして対応できるとも考えられるので、今後の改築にあたり参考とさせていただきます。
通級教室について、設備面、管理面で不十分な点が多く、改善するべき。	開設する学校の状況から準備室や通級担当者の準備室が設置できないことや学校運営上、職員室で業務を行うことにご理解ください。通級担当者が職員室で業務を行うことで、校内の子どもたちの状況をいち早く多くの先生方と共有することができ、校内支援体制を充実させることができます。また、通級に通う児童・生徒の個人情報については職員室で適切に保管するように周知に努めています。
施設整備について、教職員や児童、子どもの発達の専門家の意見が取り入れるべき。	子どもたち、教職員、保護者の皆様の声を大切にし、全員がより良い環境で過ごせるよう、今後も皆様のご意見を反映しながら、より良い学校づくりを目指してまいります。
多くの子どもが通学する歩道は、冬は滑りやすくなるのでロードヒーティングなど、歩きやすい歩道を整備するべき。	札幌市では、主に急勾配かつ交通量の多い車道及び横断歩道橋などにロードヒーティングを整備しており、歩道には原則として整備しておりません。 歩道の凍結路対策につきましては、一部の路線において滑り止めの砂の散布を実施しているほか、砂箱を設置し、地域の皆様に砂まきのご協力をいただき、対応しているところです。 通学路の安全対策については、各学校が、歩道、信号機等の状況や冬期間の道路状況等を調査、点検した報告をもとに、内容に応じて関係機関に改善要望を行うなど、安全確保に努めています。今後も、関係機関との情報交換、情報共有を図り、スクールゾーン実行委員会など現場の意見を聞きながら対応していきます。
中学校ごとに(近隣の学校と重複しないように)1つの部活に特化した施設整備を行うとともに、進学する中学校を選択できるようにすれば、学校の特色も出せて、部活動の地域移行もより有效地に実施できるのではないか。	中学校の体育施設については、それぞれの中学校において、部活動だけではなく、教科体育や体育的行事等における各種競技・種目の実施に必要な面積・機能等を確保できるよう整備しているところです。 中学校における部活動については、地域の専門人材の活用や、複数校の生徒が拠点校の学校部活動に参加する等、合同部活動等の取組を進める「部活動の地域連携」と、休日における生徒のスポーツ・文化芸術活動の場として、新たに地域

	クラブ活動を整備する「部活動の地域移行」を、地域の実情に応じて進めることとされています。札幌市においても、望ましい部活動の在り方を検討しているところであり、部活動の地域連携・地域移行を進めるにあたっての学校施設の有効な活用の在り方についても併せて検討していきます。
(教室と廊下に仕切りの無い)オープン教室を実際に使用している教員や子ども・保護者の感想や教育環境としての評価はどうなのか。	オープン教室の評価について、教職員、子どもたち、保護者からの意見を収集し、場合によっては、専門家の意見も参考にしながら、教育環境の改善に努めてまいります。
学校施設の整備に当たっては、経済性だけでなく、学習活動、環境への配慮、地域連携などの観点からも市民と十分に話し合う事が重要だ。	学校施設の整備にあたっては、子どもたち、教職員、地域の方々の意見を聞きながら、より良い学校づくりを進めてまいります。

<問い合わせ先>

札幌市教育委員会生涯学習部学校施設課

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV 北2条ビル5階

TEL:011-211-3832

ホームページ:<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/school/ijikoshin.html>

